

特集 平成25年 秋季集落座談会



9月9日から18日までの6日間、JAは秋季集落座談会を管内50会場で開催しました。今回の座談会では、平成24年産米の情勢や、平成25年産米の集荷・販売方針などについて説明を行い、組合員から貴重なご意見・ご要望を頂きました。その回答を掲載致します。

協議事項①

平成24年産米の総括及び平成25年産米の集荷・販売方針について

Q なぜ、今年の備蓄米価格が、概算金より400円高いのでしょうか。

A 備蓄米については、平成25年産米の概算金が決定する前に、平成24年産米の加重平均落札価格を参考にした、入札制度による政府買入となりますので価格差が生じます。

Q 米の価格は、どうして他業者の価格並みにならないのでしょうか。

A 業者は需要期での買取販売をしており、JAは集荷された米を「内金方式概算金」と追加払いとし、通年販売している事から、販売努力によって最終精算で業者価格以上になるように努めてまいります。

Q 昨年、各地区でカドミが発生しておりますが、本人への指導は行っているのでしょうか。

A 発生者への通知や指導も行ってあります。また、水管理巡視員の設置による湛水管理や発生防止対策も実施しております。

Q 平成24年産米の1.9mm網目使用と、それ以外の網目使用との差額はいつ頃精算されますか。

A 平成24年産米の全ての売渡及び精算が終了した時点で、個人精算をいたします。

Q 今年は、米選別機の網目1.9mmへの購入助成はないのでしょうか。

A 生産者の使用率向上を目的に助成を行ってまいりましたが、前年産米では使用率90%近くまで普及しておりますので、助成を終了しております。

